

Mémoires 2022

第66回 大阪杯(GI)



伏兵が悲願の初タイトル ポタジェ

激流にも負けず競り勝ってG I 初制覇、善戦止まりの重賞成績に終止符を打った。

単勝オッズ1.5倍と断然1番人気に推されたのは、2021年の年度代表馬エフフォーリアだった。2番人気は3.7倍で、金鯱賞をコースレコードで圧勝して破竹の5連勝中のジャックドル。しかし勝ったのはその「二強」のどちらでもなく、8番人気の伏兵ポタジェだった。

ジャックドルの逃げは1000m通過が58秒8と、G I となった2017年以降で最速のペース。エフフォーリアは中団、ポタジェは好位の直後の5番手につける。

レース後、「1コーナーの位置取りが着順に関わって思っていました」と話した吉田隼人騎手。「勝つなら、ついていかないと」とハイペースにも臆せず、前で流れに乗っていったのは、前残りが続いていた当日の傾向を見たうえで、友道康夫調教師と相談して決めた作戦通りの騎乗でもあった。

流れは後半、さらに激しさを増していった。直線、3番手から抜け出した2021年の覇者レイパバレが、ジャックドルを交わして先頭に立つ。離されまいと食い下がるポタジェ、外から猛追するアリーヴォ。3頭の我慢比べのような競り合いは、最後にポタジェがクビ差だけ抜け出して決着がついた。

ここまで14戦して、掲示板を外したのは2021年の天皇賞(秋)6着だけ。抜群の安定感を誇る一方、新潟大賞典2着や毎日王冠3着など、重賞にはなかなか手が届かず、前走の金鯱賞も鋭く追い込んだが4着まで。そんな馬が、一気に頂点まで上り詰めた。

友道調教師が「どこでも結果を出してくれる馬。本当に頭が下がります」と話したように、条件を問わず常に力を出し切る。そんな頑張り屋の走りが大きく報われた一戦であった。

第66回大阪杯(GI)

4/3 阪神競馬場 2000m(芝・右)曇・良 16頭

着順	馬名	性別	年齢	斤量	騎手	調教師	タイム/差	人気	通過順位
1	ポタジェ	牡	5	57	吉田 隼人	友道 康夫	1:58.4	⑧	⑤⑤⑤④
2	レイパバレ	牝	5	55	川田 将雅	高野 友和	クビ	③	③③③③
3	アリーヴォ	牡	4	57	武 豊	杉山 晴紀	ハナ	⑦	⑫⑩⑨⑥
4	ヒシグアス	牡	6	57	池添 謙一	堀 宣行	1	⑤	⑦⑦⑦⑥
5	ジャックドル	牡	4	57	藤岡 佑介	藤岡 健一	1 1/4	②	①①①①①
6	スカーフェイス	牡	6	57	岩田 康誠	橋田 満	クビ	⑮	⑭⑭⑭⑭⑭
7	アフリカンゴールド	騾	7	57	国分 恭介	西園 正都	1/2	⑪	②②②②②
8	ステラリア	牝	4	55	福永 祐一	齊藤 崇史	クビ	⑩	⑨⑩⑩⑩⑩
9	エフフォーリア	牡	4	57	横山 武史	鹿戸 雄一	1/2	①	⑨⑧⑧⑩
10	アカイト	牝	5	55	幸 英明	中竹 和也	3/4	④	⑬⑬⑬⑬⑬
11	キングオブコージ	牡	6	57	横山 典弘	安田 翔伍	クビ	⑥	⑮⑮⑮⑮⑮
12	ショウナンバルディ	牡	6	57	坂井 瑠星	松下 武士	ハナ	⑯	⑤⑤⑤⑤⑤
13	レッドジェネシス	牡	4	57	藤岡 康太	友道 康夫	1	⑫	⑮⑮⑮⑮⑮
14	マカヒキ	牡	9	57	岩田 望来	友道 康夫	3 1/2	⑬	⑪⑫⑬⑭⑮
15	ヒュミドル	騾	6	57	M.デムーロ	小手川 準	1 1/2	⑭	⑦⑧⑨⑨⑨
16	ウインマリリン	牝	5	55	松岡 正海	手塚 貴久	2 1/2	⑩	③③③③④

単勝 ⑧5,870円 複勝 ⑧1,140円 ⑭420円 ⑨1,240円 枠連(4-7)4,790円
馬連 ⑧-⑭10,980円 馬単 ⑧-⑭39,630円 ワイド ⑧-⑭1,990円 ⑧-⑨7,110円 ⑨-⑭3,160円
3連複 ⑧-⑨-⑭50,990円 3連単 ⑧-⑭-⑨537,590円

ハロンタイム 12.3-10.3-12.0-12.2-12.0-12.1-11.7-11.5-11.8-12.5
通過タイム 600m⑧34.6-800m⑧46.8-1000m⑧58.8-1200m⑧1:10.9-1400m⑧1:22.6-1600m⑧1:34.1-1800m⑧1:45.9



優勝馬:ポタジェ

2017.2.4生 牡 鹿毛
父:ディーブインパクト
母:ジンジャーパンチ
母の父:Awesome Again
生産:安平・ノーザンファーム
馬主:金子真人ホールディングス(株)